

死後の費用、目安知る 葬儀・墓・遺品整理で230万円超

2024/8/4 4:00 | 日本経済新聞 電子版



墓石の代わりに木や草花を植えた墓地に埋葬する樹木葬を利用する人は広がっている

今や年間160万人近くの方が亡くなる多死社会。亡くなる人が増えれば、家族の死に直面する人も増える。万一のときに備え、親も子も死後にかかるお金の相場を知っておきたい。現在は墓の購入、葬儀、遺品整理の合計で平均230万円以上かかる。

家族を亡くした人がまず考えるのが葬儀だ。葬儀にかかるお金は①斎場や火葬場の利用料、祭壇やひつぎなど葬儀一式にかかる基本料金②通夜や告別式の料理などの飲食費③参列者へのお礼の品物の返礼品④寺や僧侶に渡すお布施の合計などだ。規模が大きいほど高くなり、小さいと安くなる。

葬儀費減少、式の簡素化が影響

終活関連サービスの鎌倉新書が2022年3月から24年3月の期間に喪主を経験した2000人に聞いたところ、4つの費用の合計は平均141.4万円。調査は2年に一度実施し、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けた前回（22年）より約8万円増えた。ただ200万円を超えた20年以前に比べると減っている。

理由は少人数で見送る簡素な式の増加だ。葬儀の種類で見ると、通夜と告別式で2日かける通常の葬儀では、多くの人に参列してもらう「一般葬」が減り、家族や親戚などに参列者を絞る「家族葬」が増加した。通夜をなくして告別式だけの「一日葬」、通夜も告別式もせず火葬だけをする「直葬（火葬式）」も増えている。

主な葬儀の種類と特徴

名称	特徴	費用の目安
一般葬	<ul style="list-style-type: none"> 通夜と告別式で2日間の一般的な葬儀 広く告知し多くの人に参列してもらう 	140万～ 160万円
家族葬	<ul style="list-style-type: none"> 葬儀の内容は一般葬と同じ 参列者は家族や親族などが中心 	80万～ 100万
一日葬	<ul style="list-style-type: none"> 通夜はなく、告別式のみ 1日だけの式なので費用を抑えやすい 	40万～ 60万
直葬 (火葬式)	<ul style="list-style-type: none"> 宗教的な儀式を省き、火葬を中心にした見送り 簡潔なお別れの場を設けることも 	20万～ 40万

墓石の販売や葬儀などを手掛けるメモリアルアートの大野屋（東京都立川市）には電話やメールの相談が年2万8000件程度寄せられる。葬儀関連では、以前は故人の家族から式の段取りを知りたいという連絡が多かったが、現在は生前に親自身が自分の葬儀で問い合わせしてくる。「目立つのは家族葬や直葬、一日葬などコンパクトな葬儀の内容や費用の相談。子に迷惑をかけたくないという理由が多い」と同社コンタクトセンターの尾崎一郎所長は話す。

亡くなる人のうち大きく増えたのは80代後半や90代だ。「高齢で亡くなると親戚や知人も高齢になり葬儀の参列者は少なくなる。多くの人が一堂に会するような式は必要なくなり、小規模な家族葬が主流になった」と終活に詳しい行政書士の明石久美氏は説明する。

樹木葬や納骨堂、子の負担少なく

墓の費用はどうか。今年1月に妻を亡くしたAさん（70）は東京都内の寺院の一角にある「樹木葬」を購入した。自宅から車で20分とほど近い。粉骨した遺骨を円筒型の容器に入れて、木や花で飾られた区画に埋める。埋めた場所を示す小さなプレートがあるだけで墓石はない。「子がないので跡継ぎ不要の樹木葬を探した。いずれ自分も入るが、寺がずっと供養してくれる」とAさんは話す。

「最近の墓を選ぶ際の条件は安・近・楽（らく）」とシニア生活文化研究所代表理事の小谷みどり氏は指摘する。「値段が安い」「家から近い」「管理や継承が楽」の3つだ。都市部の霊園や寺院の一角で増えている樹木葬はこれらを満たしている。

樹木葬の相場は区画使用料、埋葬料などを含め計15万～80万円で、主に購入時に払う。鎌倉新書によれば平均価格は63.7万円。スペースが小さく墓石代がほとんどかからないので安い。

室内に遺骨を安置する「納骨堂」も平均価格は80万円前後。大半が屋内にあり、遺骨がロッカー式の棚に安置されていたり、参拝する場所に自動で運ばれてくるタイプなどがある。便利な立地が多く、お参りしやすい点も特徴だ。

主な墓の種類と特徴

名称	特徴	費用の目安
一般墓	<ul style="list-style-type: none"> 墓石に「〇〇家の墓」などと刻む昔ながらの墓 永代使用権を購入。子などが引き継ぎ管理する 	100万～300万円
納骨堂	<ul style="list-style-type: none"> 大半が屋内で、ロッカー式や自動搬送式など 都市部など便利な立地が増えている 	20万～100万
樹木葬	<ul style="list-style-type: none"> 墓石の代わりに木や草花を植えた墓地に埋葬 寺院や霊園が管理をする 	15万～80万
永代供養墓	<ul style="list-style-type: none"> 他の遺骨と一緒に入る合葬式が多い 寺院や霊園が遺族に代わって供養する 	数万円から

(注)このタイプに当てはまらないものもある

「〇〇家の墓」などと墓石に刻む従来型の「一般墓」は減少傾向。建てるときに墓石代と工事代、「永代使用料」という土地使用権の購入費がかかり、石を多く使う分、平均価格は149.5万円と高くなる。永代使用とは墓を引き継ぐ人がいる限り利用できる仕組み。子らは毎年管理料を払い、掃除など墓の手入れをする。

樹木葬や納骨堂は、引き継ぐ人がいなくても寺院や霊園が管理・供養してくれる「永代供養」の形式をとっている。子がいなくても墓の管理を任せたくないという人が利用しやすく、子らが年間管理料を負担せずに済むところも増えている。

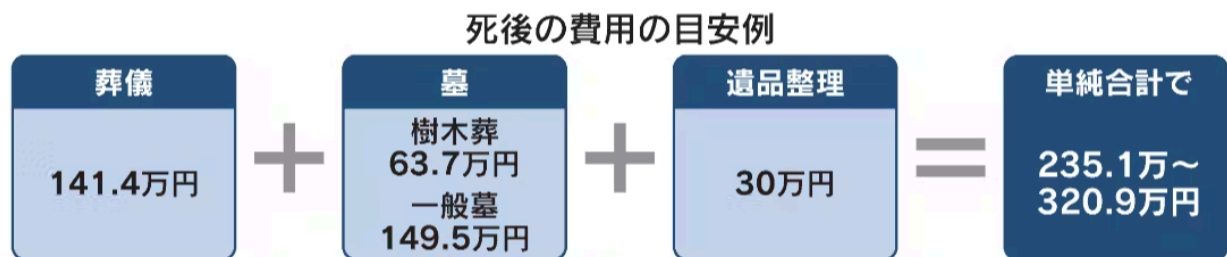
すでに墓を持っていれば必要なのは納骨費用ぐらいなので、これほどはかからないことが多い。

遺品整理にも目配り

ひとり暮らしの親が亡くなった場合は、遺品の片付けが遺族の負担になりやすい。持ち家なら急ぐ必要はないが、賃貸物件だと早く片づけないと家賃がかかり続ける。遺族も高齢になり、専門の業者に頼むケースが増えている。

「遺品整理の平均価格は一軒家だと30万～40万円、マンションだと20万～30万円程度」と話すのは、主に関東・関西・中部で年間6000件程度の遺品・生前整理をするリリース（兵庫県西宮市）の赤沢知宣社長。不用品が多ければ100万円を超えることもある。見積もりを取り、作業の説明を聞いてから頼むのが肝心だ。

空き家になった家は解体する場合もある。解体業を手掛けるクラッソーネ（名古屋市）は「費用は構造で変わり、木造は1坪（3.3平方メートル）あたり4.5万～6.5万円、鉄骨は同5万～8万円」と説明する。地域や家の密集度合いでも異なり、例えば東京23区で木造2階建て延べ床面積100平方メートルの家を解体すると、住宅密集地で220万円、非密集地は190万円程度かかる。



（注）墓を新しく用意する場合。葬儀と墓の費用は鎌倉新書の2024年調査、遺品整理はリリースへの取材を基に作成

夏場はお盆や夏休みなどで家族が集まる機会が多い。葬儀や墓などはどんな形式がよいか、費用は誰が負担するかなどを親子で話し合っておくとよさそうだ。

デジタル遺品、生前に備え

終活で心配なことの1位は「物の整理、片づけ」、2位は「パソコンやスマートフォンなどの管理」——。SBIいきいき少額短期保険（東京・港）が昨年11月、50歳以上の男女約1000人を対象に調査したところ、こんな結果が出た。手つかずのままだと、本人の死後に家族の負担につながる。

パソコンやスマホの中にある「デジタル遺品」では「パスワードが分からず、保存されている文書やデータを取り出せない」というトラブルが多い。葬儀の際には故人の電話帳や連絡先リストを取り出すことができずに訃報を伝えられなかったり、遺影にふさわしい写真データを得られなかったりする。また「故人の金融取引の内容やサブスクリプション（定額課金）サービスの利用状況を把握できない」といった事例も増えている。

専門の業者に頼めばパスワードロックを解除し内部データを復旧できる場合がある。

「ケース・バイ・ケースだがスマホの場合、費用は20万～30万円程度、期間も半年から1年程度かかることがある」とデジタル遺品に詳しい弁護士の伊勢田篤史氏は話す。

「生前にデジタル機器のパスワードや利用していたサービスなどを家族に伝えたり、書

き残したりしておくことが重要」（伊勢田氏）。求められるのはアナログな対応だ。
（土井誠司）

【関連記事】

- ・ [親が認知症になったら相続は？ 国の制度や信託の活用を](#)
- ・ [相続財産「見える化・断捨離」親子で早めに 任せず協力](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.